



機構及び事務分掌

平成 26 年 5 月 15 日

文化観光局

目 次

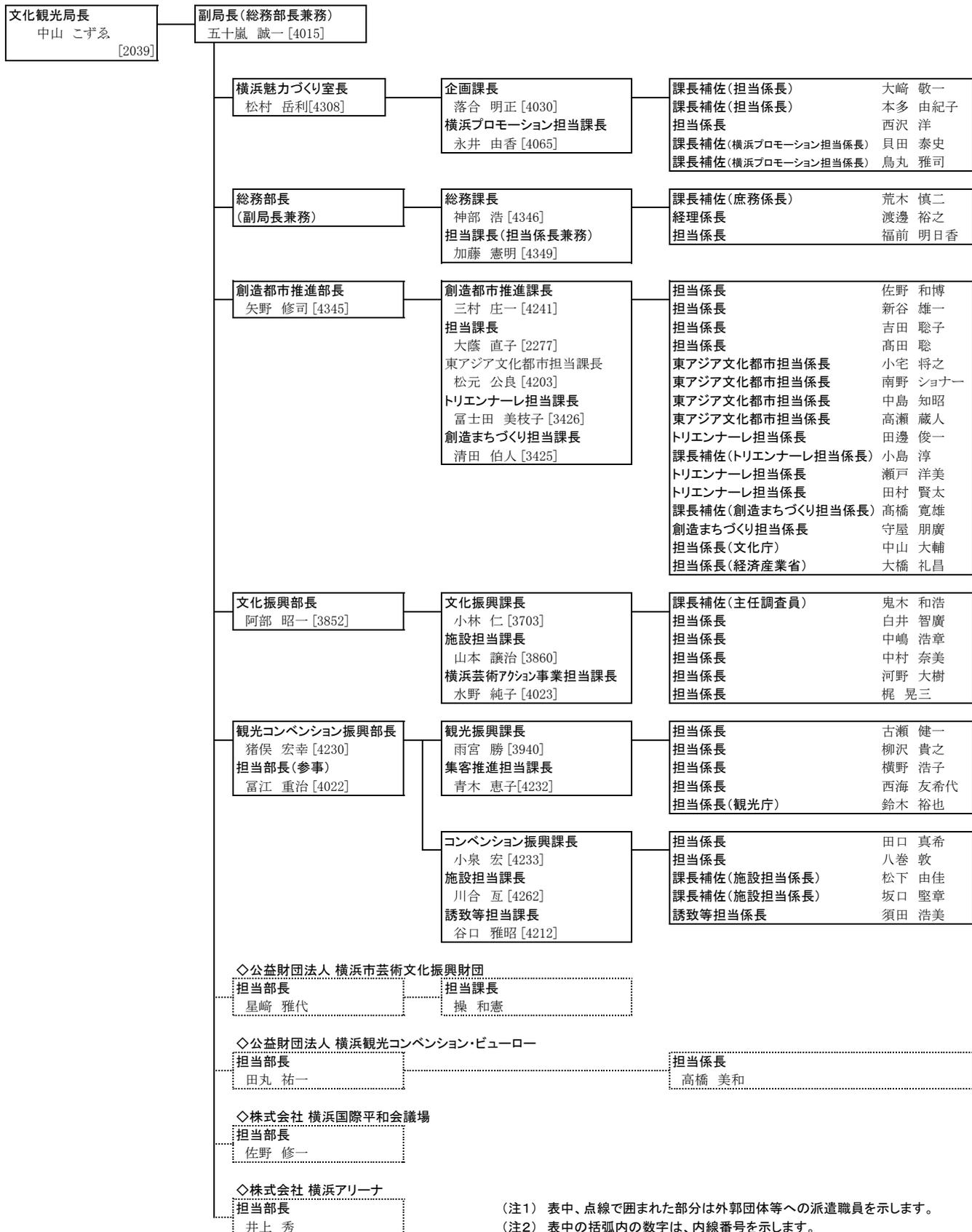
1 機構図

文化観光局 P 1

2 事務分掌

文化観光局 P 2

1 機構図



(注1) 表中、点線で囲まれた部分は外郭団体等への派遣職員を示します。
(注2) 表中の括弧内の数字は、内線番号を示します。

2 文化観光局事務分掌

横浜魅力づくり室

企画課

- 1 横浜の魅力向上に係る総合的な企画、調整及び調査研究に関すること。
- 2 局の重要施策の企画及び総合調整に関すること。
- 3 シティプロモーションに関すること。

総務部

総務課

- 1 局内の人事、文書、予算及び決算に関すること。
- 2 局内の事務事業の連絡調整に関すること。
- 3 局所管の外郭団体の総合調整に関すること。
- 4 局の危機管理に関すること。
- 5 開港 150 周年記念事業に関すること。
- 6 他の室および部の主管に属しないこと。

創造都市推進部

創造都市推進課

- 1 創造都市の形成に係る総合的な企画、調整及び事業等の実施に関すること。
- 2 創造都市の形成に係る拠点の整備及び運営管理並びにこれらに係る企画、調査及び調整に関すること。
- 3 創造都市の形成に係るまちづくりに関すること。

文化振興部

文化振興課

- 1 文化施策の総合的な企画及び事業の実施に関すること。
- 2 文化芸術活動の総合的な支援に関すること。
- 3 文化施設の整備及び運営管理並びにこれらに係る企画、調査及び調整に関すること。
- 4 区役所の文化振興支援に関すること。
- 5 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団に関すること。
- 6 文化基金に関すること。
- 7 その他文化振興に関すること。

観光コンベンション振興部

観光振興課

- 1 観光交流の推進及び調整に関すること。
- 2 観光関係の団体及び施設に関すること。
- 3 国内外からの観光客の集客に係る総合的な企画、調整及び事業の実施に関すること。
- 4 公益財団法人三溪園保勝会及び公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューローに関すること。
- 5 部内他の課の主管に属しないこと。

コンベンション振興課

- 1 大型国際コンベンションその他のコンベンション等の誘致及び開催支援に関すること。
- 2 大規模集客イベントの支援に関すること。
- 3 コンベンション関係の団体及び施設に関すること。
- 4 株式会社横浜国際平和会議場及び株式会社横浜アリーナに関すること。



平成 2 6 年度

事 業 概 要

文化観光局

目 次

| | ページ |
|--------------------------------|-----|
| I 平成26年度文化観光局予算について | 3 |
| ○予算額の概要 | |
| ○予算編成の考え方 | |
| ◆トピックス① 文化観光局の事業展開の概念◆ | 4 |
| II 平成26年度文化観光局主要事業 | 5 |
| 1 戦略的・効果的なシティプロモーションの展開・強化 | 5 |
| (1) シティプロモーション事業 | |
| (2) 調査分析事業 | |
| (3) 魅力創発事業 | |
| 2 横浜の未来を担う次世代育成の推進 | 6 |
| (1) 芸術文化教育プログラム推進事業 | |
| (2) クラシック・ヨコハマ推進事業 | 7 |
| (3) 映像文化都市づくり推進事業 | 8 |
| (4) 横浜芸術アクション事業 | |
| ◆トピックス② 新たな次世代育成の事例◆ | 8 |
| 3 市民の文化芸術活動の支援 | 9 |
| (1) 市民ギャラリー移転事業 | |
| (2) 文化施設整備事業 | |
| (3) 地域文化サポート事業 | 10 |
| (4) 芸術文化支援事業 | |
| (5) 創造都市市民連携事業 | |
| (6) 文化施設運営事業 | |
| 4 横浜らしい先進的な文化芸術・創造都市の国内外への発信 | 11 |
| (1) 東アジア文化都市事業 | |
| (2) 横浜トリエンナーレ事業 | 12 |
| (3) アーツコミッション事業 | 13 |
| (4) 創造的産業振興モデル事業 | |
| ◆トピックス③ ヨコハマトリエンナーレ2014における協働◆ | 13 |
| (5) 旧関東財務局保全・耐震対策事業 | 14 |
| (6) スマートイルミネーション事業 | |
| (7) 創造限界活動支援事業 | 15 |
| ◆トピックス④ 人、モノ、情報の拠点都市へ◆ | 15 |

| | |
|----------------------------------|----|
| 5 MICE誘致・開催支援、集客増に向けた観光施策の充実 | 16 |
| (1) 新たなMICE施設整備事業 | |
| (2) MICE誘致・開催支援事業 | 17 |
| (3) 企業連携観光プロモーション事業 | |
| (4) 多文化に対応した受入・誘客事業 | 18 |
| (5) 誘客事業 | |
| ◆トピックス⑤ 横浜来訪者の受入環境の向上◆ | 18 |
| ◆トピックス⑥ アジア諸国のMICEの取組と本市のMICE施策◆ | 19 |
| ◆トピックス⑦ 「横浜市文化芸術創造都市施策の基本的な考え方」◆ | 20 |
| III 平成26年度文化観光局予算総括表 | 21 |
| IV 予算科目別内訳 | 23 |
| 1 文化観光総務費 | 23 |
| 2 創造都市推進費 | 24 |
| 3 文化振興費 | 26 |
| 4 観光・コンベンション振興費 | 28 |

I 平成26年度 文化観光局予算について

予算額の概要

26年度の文化観光局の一般会計の予算額は、72億143万円、対前年度15億8,455万円の減、18.0%の減となっています。

主な減額理由は、文化施設整備事業（鶴見区民文化センター及び戸塚区民文化センター）の減によるものです。

| 区分 | 26年度予算額 | 25年度予算額 | 増減 |
|------|----------|------------|-------------------------|
| 一般会計 | 72億143万円 | 87億8,598万円 | △15億8,455万円 (△18.0%) |

(内訳は21ページの文化観光局予算総括表をご覧ください。)

予算編成の考え方

1. さらなる飛躍に向けて

文化観光局は、これまで「文化のかおる活力ある都市横浜、人が集い交流する賑わいのある都市横浜」の実現に向けて、文化芸術、創造都市・まちづくり、観光MICEの相乗効果を発揮しながら、データに基づいたPDCAサイクルを意識し事業を展開してきました。

25年度に、国から「東アジア文化都市」の第1回開催都市や、「グローバルMICE戦略都市」に選定されたことは、これまでの取組の大きな成果であるとともに、今後の発展に向けた絶好の機会です。

26年度は、こうした好機をとらえ着実に施策を展開するとともに、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を見据えた、新たな取組をスタートさせる年度でもあります。

文化観光局は、さらなる飛躍に向けて、観光MICE分野での成長を一層促進するとともに、幅の広い文化芸術・創造都市施策の展開と発信により賑わいと活力のあふれる「選ばれる都市横浜」の実現を目指します。

2. 施策を推進する5つの柱

横浜が市民の皆様にとって誇れるまち、国内・海外からも「選ばれる都市」として、持続的に発展し、都市の活性化を図るために、市民の皆様をはじめ、地域、事業者、団体、NPOなど様々な皆様と連携し、施策に取り組みます。

横浜には、都心臨海部だけでなく市内全域に、魅力的な観光資源や優れた文化・観光施設、先駆的で創造的な文化芸術活動の担い手や地域での活発な市民の文化芸術活動など、様々な魅力資源があります。市内全域で市民の皆様が活動しやすい環境づくりや魅力資源の発掘を進めます。

また、横浜の持続的な発展には、未来を担う子どもたちや才能豊かな新進アーティストなど、次代を担う人材の育成が不可欠です。文化芸術や観光 MICE 施策においても次世代育成に積極的に取り組みます。

日本・中国・韓国3か国が協働して行う「東アジア文化都市」が横浜で初めて開催されることは、横浜の魅力を国内外に発信していく絶好の機会です。横浜らしい先進的な文化芸術・創造都市の国内外への発信を進めます。

国内外からの交流人口の増加・賑わいづくりによる市内消費の拡大など、横浜経済活性化につなげていくための誘客力の向上をすすめるとともに、激しさを増す国際競争の中で MICE 拠点都市としての地位を確立していくため、横浜の強みを生かした MICE 機能の拡充・強化を進めます。

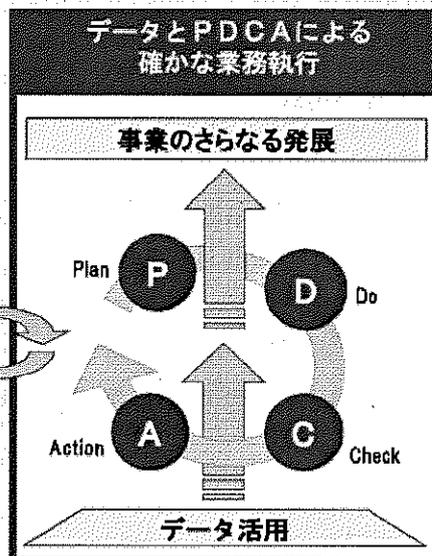
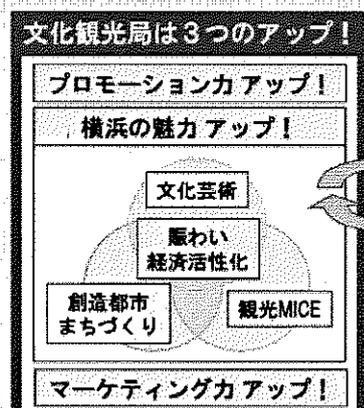
さらに、横浜のブランド力向上や集客・賑わいづくりにつなげていくために、戦略的・効果的なシティプロモーションの展開・強化を図るとともに、文化芸術・創造都市・観光 MICE すべての分野でプロモーション力を強化します。

これらを踏まえ、26年度は、5つの柱を立て、施策を推進します。

- 1 戦略的・効果的なシティプロモーションの展開・強化
- 2 横浜の未来を担う次世代育成の推進
- 3 市民の文化芸術活動の支援
- 4 横浜らしい先進的な文化芸術・創造都市の国内外への発信
- 5 MICE 誘致・開催支援、集客増に向けた観光施策の充実

◆トピックス① 文化観光局の事業展開の概念◆

開放的、創造的で、新しい発見や感動が体験できるまち「横浜」のブランドイメージを高めるため、「あうたびに、あたらしい ～ Find Your Yokohama」をキーワードに、データとPDCAサイクルによる確かな業務執行を基盤とし、3つのアップの連動によって、さらなる賑わいと経済活性化につなげます。



Ⅱ 平成26年度 文化観光局 主要事業

1 戦略的・効果的なシティプロモーションの展開・強化

横浜のブランド力向上や集客・賑わいづくりにつなげていくため、基礎的情報の収集・分析を踏まえ、文化芸術・創造都市・観光 MICE を中心に横浜の魅力を総合的に発信するシティプロモーションを戦略的・効果的に展開します。

(1) シティプロモーション事業 **拡充**

6,781 万円 (前年度 : 5,999 万円) p. 23

文化芸術・観光分野を中心に、横浜のブランド力向上や集客・賑わいづくりにつながる重点イベント・施設を設定し、ターゲットに適した広報媒体を選択しながら、年間を通じた効果的なシティプロモーションを展開します。26年度は、テレビプロモーションの強化や首都圏の情報発信拠点の増加に取り組みます。

また、プロモーションに関するノウハウや方向性を全庁的に共有し、市として表現やデザインに統一性と一貫性のあるプロモーションが展開できるよう取り組みます。

(2) 調査分析事業 **拡充**

1,275 万円 (前年度 : 880 万円) p. 23

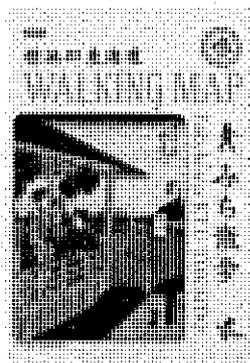
市内で実施されるイベントや、横浜を代表する文化・観光施設等について、意識行動調査を実施し、広く認知度や訪問意欲等を把握することにより、今後の施策立案、プロモーション等の基礎資料として活用します。26年度は、調査対象を海外にも広げ、調査を実施します。

(3) 魅力創発事業

2,095 万円 (前年度 : 2,380 万円) p. 23

都心部や郊外部の地域資源の魅力を高め、横浜の魅力として発信していく取組を、区局、市民団体、企業等との協働により進めます。

26年度は、歴史や自然などの地域資源を活用した区局連携事業である「旧東海道の歴史を活かした魅力づくり」、「横浜つながりの森」などを、25年度までの実績を踏まえて引き続き展開します。



【旧東海道ウォーキングマップ】

横浜の未来を担う子どもたちの豊かな創造性や感受性を育むため、学校や地域において、子どもたちが文化芸術や国際交流などに親しむ機会を充実します。

また、才能豊かな新進アーティストや、将来の芸術家の芽を育む取組を推進し、横浜から世界に羽ばたくチャンスあふれる街を目指します。

(1) 芸術文化教育プログラム推進事業 拡充

3,250万円（前年度：2,350万円）

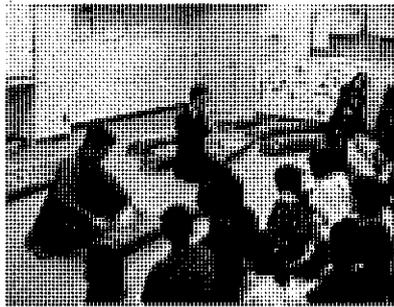
p. 26

芸術文化の力によって、次世代を担う子どもたちの表現力やコミュニケーション力等を育成するため、学校にアーティストを派遣し、子どもたちが音楽や美術、ダンス、伝統芸能等の体験ができる教育プログラムを実施します。

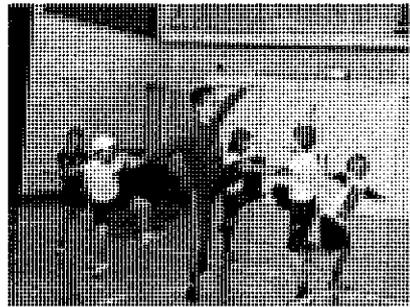
NPO 団体、市内文化施設等が、教師とアーティストのコーディネートを担うことで効果的なプログラムを提供します。

26年度はプログラム実施校数を拡大し、126校で実施します。

写真左：
【市立間門小学校
「日本の音」を見つけよう
分野／伝統芸能】

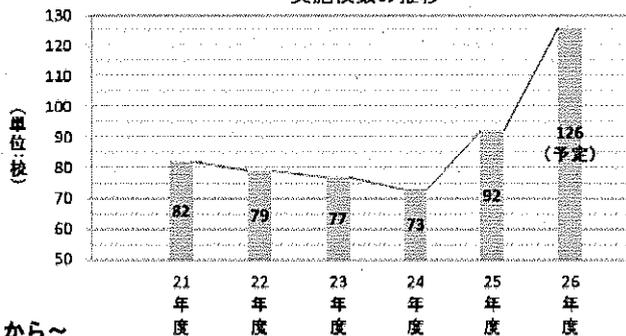


写真右：
【市立永野小学校
校歌でダンス！
分野／ダンス】



<参考>

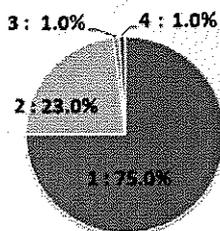
実施校数の推移



～24年度実施校アンケートから～

(先生向け)

先生のねらいに照らして、今回のプログラムは満足できるものでしたか

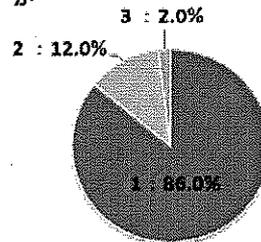


アンケート回収数：70校
〔全実施校 73校〕
回収率 95.8%

- 1 満足
- 2 どちらかといえば、満足
- 3 どちらかといえば、不満
- 4 その他・無回答

(児童・生徒向け)

あなたにとって、この授業でためになったことはありますか



アンケート集計数：5,585人
〔小学3年生以上対象、
複数学年での取り組みは
任意の1学年で実施〕

- 1 あった
- 2 なかった
- 3 その他・無回答

(2) クラシック・ヨコハマ推進事業

拡充

1,450万円（前年度：1,400万円）

p. 26

国内屈指の若手演奏家に演奏機会を提供するとともに、市民の皆様身近な場所で音楽を楽しんでいただくことを目的とし、国内最高峰の学生音楽コンクールである全日本学生音楽コンクール全国大会を横浜みなとみらいホールで実施するほか、学生音楽コンクール入賞者による地域でのサロンコンサートや美術館でのコンサートなど市内の大小様々な会場でのコンサートを2か月半にわたり開催します。

また、国際音楽セミナー（ミュージック・マスターズ・コース・ジャパン）を横浜みなとみらいホールで約2週間にわたり実施します。世界各地から若手演奏家が集い、合宿形式で世界的演奏家から指導を受けるとともに、その成果を発表するコンサートを4回開催します。26年度から音楽コースを設置する戸塚高校では、セミナー講師による教育プログラムを回数を増やして行います。



【介護老人保健施設ウェルケア新吉田
（港北区）でのコンサート】



【ミュージック・マスターズ・コース・
ジャパン講師による教育プログラム
（市立戸塚高校吹奏楽部）】

<参考>

全日本学生音楽コンクール入賞者、国際音楽セミナー受講生の活躍

（※敬称略）

- もうりふみか
・毛利文香：第62回（2008年）全日本学生音楽コンクール全国大会バイオリン部門中学校の部第2位
→2012 ソウル国際コンクール第1位
- おおにしたかおき
・大西宇宙：第62回（2008年）全日本学生音楽コンクール全国大会声楽部門大学・一般の部第1位
→2012 オペラ・インデックス国際声楽コンクール第1位
- やまねかずひと
・山根一仁：第63回（2009年）全日本学生音楽コンクール全国大会バイオリン部門中学校の部第1位
→第79回（2010年）日本音楽コンクールバイオリン部門第1位
→第60回（2011年）横浜文化賞文化・芸術奨励賞受賞
- おおえ かおる
・大江 馨：第63回（2009年）全日本学生音楽コンクール全国大会バイオリン部門高校の部第1位
→第82回（2013年）日本音楽コンクールバイオリン部門第1位
- あいだりぼん
・会田莉凡：2011年国際音楽セミナー受講生
→第81回（2012年）日本音楽コンクールバイオリン部門第1位

(3) 映像文化都市づくり推進事業

2,671万円(前年度:2,867万円)

p.24

本市が誘致した東京藝術大学大学院映像研究科の知識・技術などに市民の皆様が触れることのできる公開講座やオープスタジオなどの地域貢献事業を実施します。



写真左:【ワークショップ参加者及び作品/東京藝術大学教員・学生とのコラボ】

次世代を担う子どもたちの豊かな感性や創造性を育むため、子どもたちなど次世代を対象とした内容の充実を図ります。

写真右:【画像下絵づくり】



(4) 横浜芸術アクション事業

3,280万円(前年度:2億4,800万円)

p.26

高校生・大学生を対象としたダンスコンテストや若手アーティストの育成を目的とした音楽事業など、引き続き次世代育成事業及び市民参加事業等を実施します。

◆トピックス② 新たな次世代育成の事例◆

◆ MICE を活用した次世代育成

MICE 開催による効果の市内還元と、MICE 主催者への支援の一環として、MICE に参加した研究者等と横浜市内の学生が交流する機会を設けるなど、次世代を担う若者が最先端の技術や情報に接する機会を創出します。



◆ 若手アーティスト・クリエイターの活動支援等

【日本地震学会における次世代育成】

創造界隈拠点を会場として、美術大学などの卒業展覧会等を開催するほか、開催情報をWEB・SNS等を活用して発信し、若手アーティスト・クリエイターの活動を支援します。

また、創造界隈拠点において大学生等を対象としたスクール事業を開催し、次世代の育成を図ります。

* MICE 誘致・開催支援事業、創造界隈活動支援事業等により実施



【卒展(BankART Studio-NYK)】

3

市民の文化芸術活動の支援

市民の皆様や NPO 等が主体となって行う文化芸術活動を支援するとともに、様々な文化芸術活動を鑑賞、創作、体験、発表できる機会を充実します。

また、文化芸術活動の拠点施設を運営・整備し、文化芸術を身近に親しむ機会を提供するとともに、様々な情報や魅力を発信します。

(1) 市民ギャラリー移転事業

拡充

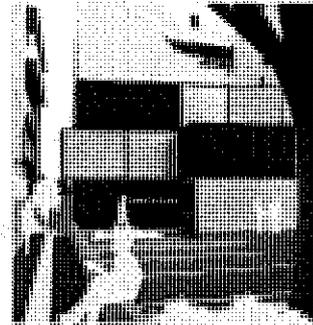
6億3,490万円(前年度:2億7,000万円) p.27

耐震強度の低い教育文化センターの解体に伴い、同センター内の市民ギャラリーを旧いせやま会館(西区宮崎町)へ移転します。

26年度は引き続き改修工事を行い、休憩スペースを持つ広々としたエントランスホール、稼動展示壁によりフレキシブルに構成できる展示室、様々な創作活動に利用できるアトリエ等を整備します。

10月10日から開館事業として、内覧会を兼ねた収蔵作品展を開催し、11月4日から展示室やアトリエの貸出を行います。

- ・ 構造 鉄筋コンクリート造4階建て
(地下1階～地上4階)
- ・ 延べ面積 3,428平方メートル
(改修増築後)
- ・ 施設内容 展示室(地下1階～3階)、
アトリエ、収蔵庫等



【新ギャラリー外観イメージ】

(2) 文化施設整備事業

一部新規

1億8,296万円(前年度:22億7,940万円) p.27

市民の皆様が身近に文化芸術に接し、個性豊かな文化芸術活動を活発に行うことができる環境整備のため、身近な拠点となる区民文化センターを、各区の地域特性等に応じて整備します。26年度は、新たに瀬谷区において、基本構想検討に着手します。

瀬谷区：基本構想検討

(瀬谷駅南口第1地区市街地再開発事業の中での整備に向けて、基本構想検討)

戸塚区：施設整備費等

(戸塚駅西口に25年8月開館済み。24年度から27年度まで施設整備費支払)

(3) 地域文化サポート事業

3,000万円(前年度:3,000万円)

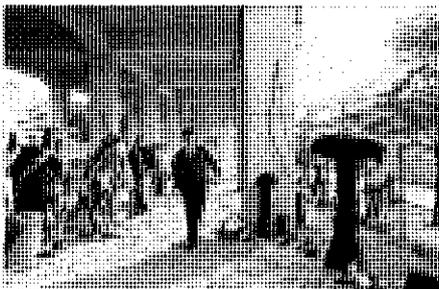
p. 26

文化芸術の持つ創造性をコミュニティやまちの活性化につなげる文化芸術活動や、横浜の個性ある文化芸術を市内外へ発信する活動を広く公募し、支援します。

また、地域における文化芸術活動をサポートするため、26年度から横浜市芸術文化振興財団、横浜市、NPO法人で共同の事務局体制を形成し、採択団体や市内文化施設等によるネットワークづくりを推進するほか、文化活動に関する相談対応、研修等を実施します。

写真左：
【都筑アートプロジェクト
(都筑区)】

写真右：
【金沢文庫芸術祭
(金沢区)】



(4) 芸術文化支援事業

3,840万円(前年度:3,840万円)

p. 26

市民の皆様が様々な文化芸術活動を鑑賞、体験、発表できる機会の充実を目指し、市に拠点のある文化芸術団体が行う、横浜の文化振興の基盤を担う活動を支援します。

市内唯一のプロオーケストラである神奈川フィルハーモニー管弦楽団が行う「ヨコハマ・ポップス・オーケストラ」のコンサートなどの活動を支援するほか、美術、舞台芸術など、市民の文化振興を担っている団体の活動を引き続き支援します。

(5) 創造都市市民連携事業

1,007万円(前年度:1,119万円)

p. 25

約400名の市民ボランティアスタッフが運営に参加する「横濱 JAZZ PROMENADE」や、日本大通り等を中心に開催する同時コンサート「ホッチポッチ・ミュージックフェスティバル」など、多くの市民の皆様が参加するイベントの開催を引き続き支援するとともに、まちの賑わいや来街者の回遊性を創出します。

(6) 文化施設運営事業

25億2,701万円(前年度:25億4,116万円)

p. 27

専門文化施設である横浜美術館、横浜みなとみらいホール、横浜能楽堂、横浜にぎわい座、横浜赤レンガ倉庫1号館の運営を通じて、国内外から注目されるような質の高い展覧会・公演を開催し、横浜の魅力を発信します。関内ホール、大倉山記念館、長浜ホール、久良岐能舞台、陶芸センターなど市内10の文化施設の運営を通じて、市民の皆様が文化芸術を身近に親しむ機会を提供します。

また、これらの施設や区民文化センターを安全かつ適切に維持管理するとともに、施設のポテンシャルを十分に発揮できるよう、舞台設備等を計画的に修繕・更新します。

横浜らしい特色ある先進的な文化芸術を国内外に発信するとともに、文化芸術の国際交流の展開により、アジアを中心とした世界からアーティストが集まる文化芸術のハブ都市を目指します。

また、歴史的建造物など横浜ならではの地域資源を創造活動の場として活用するとともに、アーティスト・クリエイターなど創造的な人材の一層の集積と企業・地域との協働を推進し、創造的産業の振興や、創造性を活かしたまちづくりを進めます。

(1) 東アジア文化都市事業

新規

4億円（前年度：創造都市国際交流事業として2,078万円） p. 24

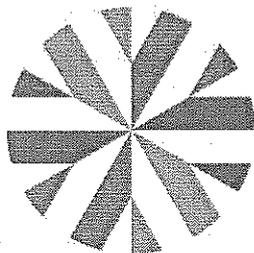
日中韓3か国の選定都市（中国：泉州市、韓国：光州広域市）で、多彩な文化芸術イベント等を開催し、東アジア域内の相互理解と連帯感の形成の促進、東アジア文化の国際発信力の強化を図ります。

開港以来横浜が培ってきた創造性を発揮しながら、以下の3点を柱とし、「横浜から共に創る新しい力～コラボレーションがイノベーションを興す～」をコンセプトに事業を展開します。

- 横浜の気風ともいえる新しいものを受け入れつつ、さらに新しいものを生み出す先駆性、開放性
- 中国、韓国を始めとする、東アジア諸国や国内他都市との交流、協働
- 観光の振興、産業の活性化につながる事業展開で創り出す賑わい、経済効果

【全体スケジュール】

- ・25年9月28日：2014年東アジア文化都市正式決定
- ・26年2月25日：オープニングセレモニー・イベント実施（文化庁・横浜市共催）
- ・26年9月～10月：東アジア文化都市「コア期間」
- ・26年9月：日中韓芸術祭開催（文化庁・横浜市共催）
- ・26年11月～12月：クロージング式典、クロージングイベント開催（文化庁・横浜市共催）



交差する、人・アート・文化

東アジア文化都市
2014横浜
Culture City of East Asia
2014, YOKOHAMA

【東アジア文化都市 2014 横浜ロゴ】



【東アジア文化都市 2014 横浜
広報親善大使「でんぱ組.inc」
（写真提供：日刊スポーツ新聞社）】

(2) 横浜トリエンナーレ事業

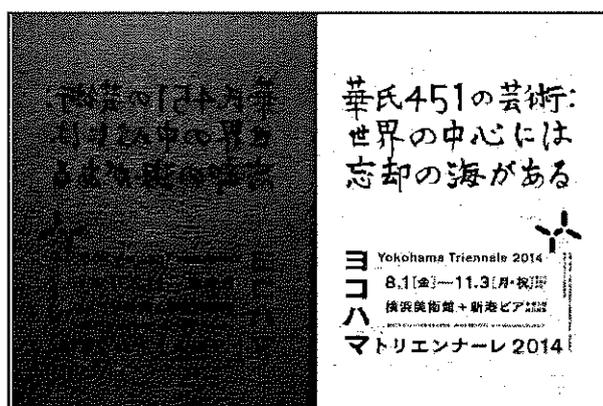
拡充

4億4,760万円（前年度：8,150万円）

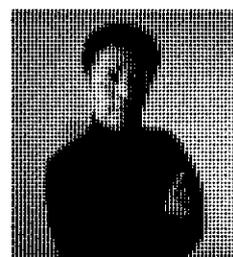
p. 24

我が国を代表する現代アートの国際展である『ヨコハマトリエンナーレ 2014』を「東アジア文化都市 2014 横浜」の中心的な事業として、平成 26 年 8 月 1 日から 11 月 3 日まで開催し、創造都市横浜の魅力を国内外に発信します。

主会場は横浜美術館と新港ピア（新港ふ頭展示施設）、午前 10 時～午後 6 時の開場を予定しています。アーティスティック・ディレクターに美術家の森村泰昌氏を迎え、コンセプトは、「華氏 451 の芸術：世界の中心には忘却の海がある」。来場者を普段の生活で見過ごされる無数の情報、忘却された記憶に目を向ける「忘却巡り」の旅へと誘います。



【ビジュアルデザイン】



© Morimura Yasumasa+ROJIAN

【アーティスティック・ディレクター
森村泰昌氏】

○ まちにひろがるトリエンナーレ

創造界限拠点や市民、地域と協働して、来場者の回遊性を高め、まち全体の賑わいを創出します。

・創造界限拠点連携

5つすべての創造界限拠点（BankART Studio NYK[日本郵船横浜海岸通倉庫]、初黄・日ノ出町地区、象の鼻テラス、急な坂スタジオ[旧老松会館]、ヨコハマ創造都市センター[旧第一銀行横浜支店]）が会期中に実施する事業と広報や会場間のアクセス等で連携します。

・応援企画

文化芸術をテーマに活動している団体等が会期中に開催する展覧会等のイベントや企画を募集し、相互に広報連携を行います。また、会場周辺商業施設や商店街とタイアップし、まち全体で盛り上げます。

○ 市民との協働

市民協働事業として、横浜トリエンナーレと一緒に盛り上げ、応援する横浜トリエンナーレサポーターを育成し、共に活動していきます。【登録人数：1,330人（平成 26 年 4 月 30 日現在）】

(3) アーツコミッション事業

1億1,080万円(前年度:1億3,428万円) p.24

アーティスト・クリエイターに対するワンストップ相談窓口の設置、現代アート・舞台芸術をはじめとする展示・公演などの創造活動や事務所・アトリエなどの拠点形成に対する助成を行うことで一層の集積を進めるとともに、創造都市の取組をWEBやSNSを活用して市内外に情報発信します。

(4) 創造的産業振興モデル事業

拡充

2,500万円(前年度:2,000万円) p.24

都心部に集積を進めてきたアーティスト・クリエイターと、市内中小企業双方の意欲的で創造的な活動を支援し、新たなビジネス機会の創出や創造的産業の振興につなげます。

25年度は、「マッチングコーディネーター」のもと、アーティスト・クリエイター及び市内中小企業等を構成員としたモデルプロジェクトづくりに取り組みました。

26年度は、専門家の派遣など、モデルプロジェクトに対する支援を行い、付加価値が高い商品やサービスの開発につなげます。【アーツコミッション事業の一部】

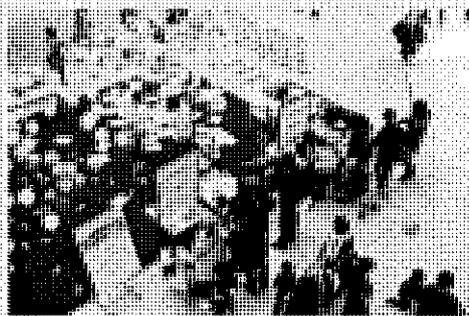
◆トピックス③ ヨコハマトリエンナーレ2014における協働◆

○ 市民協働

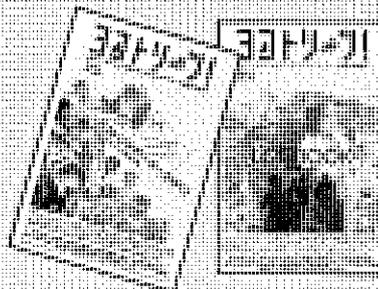
市民協働事業として、横浜トリエンナーレを一層に盛り上げ、応答する横浜トリエンナーレサポーターを育成し、共に活動しています。サポーターは定期講座(トリエンナーレ学校)や課外活動等でサポーター活動を実施しながら、「ヨコハマトリエンナーレ2014」に向けた準備を進めています。講習会では、会場でのお客様への案内活動を行います。

〔25年度のサポーター事業〕

- ・定期講座(トリエンナーレ学校2014)：5月から毎月1回開催
- ・課外活動：サポーターが自主的に計画し、商業施設等とも連携して実施(トリエンナーレ開催100日前カウントダウンイベント等)
- ・広域用フリーペーパー「ヨコトリーツ」の発行(3か月に1回)



〔100日前カウントダウンイベントの様子(同年1月23日)〕



〔広域用フリーペーパー「ヨコトリーツ」〕

(5) 旧関東財務局保全・耐震対策事業 拡充

2,759万円(前年度:2,300万円) p.25

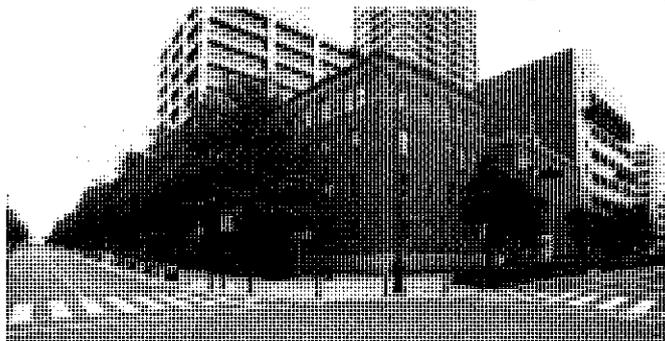
本市の指定有形文化財である旧関東財務局を活用し、民間事業者との連携のもと、クリエイターのオフィスやカフェなど、創造産業の集積や賑わいを創出する中核施設を整備し、経済の活性化につなげます。

26年度は、実施設計を行うとともに、事業予定者を決定し、耐震改修工事に着手します。

【予定スケジュール】

| | 26年度 | 27年度 | 28年度 |
|------|-------|----------|---------|
| 公募関係 | 事業者公募 | ★事業予定者決定 | ★オープン |
| 工事関係 | 実施設計 | 耐震改修工事 | |
| | | | 内装工事(※) |

※公募により選定された民間事業者が実施



【旧関東財務局外観】

(6) スマートイルミネーション事業 拡充

1,540万円(前年度:1,430万円) p.25

冬のイルミネーションシーズンにあわせ、公共空間を中心とした都心臨海部の夜景を省電力技術とアートで演出し、都市としての魅力アップを図ります。

なお、26年度は、東アジア文化都市事業と連携し、鶴見区や緑区などでも事業を展開します。



【スマートイルミネーション横浜 2013
撮影:アマノスタジオ】



【スマートイルミネーション新治
撮影:アマノスタジオ】

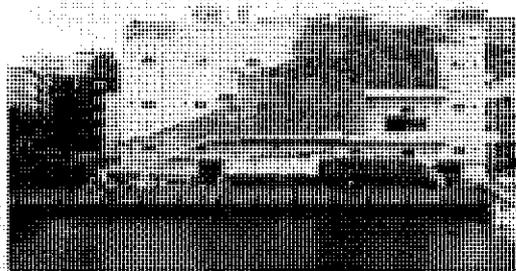
(7) 創造界隈活動支援事業

3億2,588万円(前年度:3億6,014万円) p.24

歴史的建造物や倉庫等、都心部の地域資源を有効活用した創造界隈拠点として、ヨコハマ創造都市センター(旧第一銀行横浜支店)や、BankART Studio NYK(日本郵船横浜海岸通倉庫)、急な坂スタジオ(旧老松会館)、象の鼻テラスの運営・管理を行い、アーティスト・クリエイターの活動を支援し地域の活性化を図ります。

また、違法な小規模飲食店が多数立地していた初黄・日ノ出町地区において、引き続き、地元・警察・行政が一体となって、文化芸術の力を生かしたまちの再生を進めます。

26年度は、東アジア文化都市事業、ヨコハマトリエンナーレ2014と連携して、創造界隈拠点の活動をより一層国内外に情報発信します。



【Expand BankART 川俣正 展】
(BankART Studio NYK)
撮影: BankART1929

◆ トピックス④ 人、モノ、情報の拠点都市へ ◆

○「東アジア文化都市」「グローバルMICE戦略都市」ダブル選定

横浜市は25年度、文化庁から「東アジア文化都市」第1回開催都市、観光庁から「グローバルMICE戦略都市」にそれぞれ選定されました。これを契機に、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会開催を見据え、文化芸術・創造都市、観光MICEそれぞれの分野で、人、モノ、情報の拠点都市への取組を加速します。

東アジア文化都市

日本・中国・韓国の3か国が協働し、東アジア域内の相互理解と連帯感の形成、国際発信力の強化を目的に、毎年1都市を選定し、様々な文化芸術、交流事業を実施するものです。2013年9月の日中韓文化大臣会合で、横浜市はその第1回開催都市に決定されました。事業開始年の2014年は日中韓で各1都市、合計3都市で開催され、2015年以降は、2015年中国、2016年韓国、2017年日本の順に毎年1都市が選定されます。

グローバルMICE戦略都市

「グローバルMICE戦略都市」事業は、観光庁が海外競合国・都市との誘致競争に打ち勝てるポテンシャルのある都市を選定して集中的に支援し、グローバルレベルの競争力を有する都市を育成することを目的としています。横浜市のほか、東京都、京都市、神戸市、福岡市が選定されています。

経済波及効果の高い中大型の国際会議や医学会議を中心に MICE の誘致を行うとともに、市内事業者等と連携した MICE 開催支援を推進します。また、MICE の市場規模の世界的な拡大や横浜での開催需要を踏まえ、MICE 施設の整備を進めます。

国内外からの交流人口の増加による市内経済活性化を目指し、民間事業者と連携し誘客力の強化に取り組みます。さらに、インターネット等を活用し国内外に情報発信するとともに、多文化に対応した受入環境の向上など、観光客の満足度を高める取組を進めます。

(1) 新たな MICE 施設整備事業

4,000 万円（前年度：4,000 万円）

p. 29

MICE の市場規模の世界的な拡大や横浜での開催需要に対応するため、パシフィコ横浜の隣接地（みなとみらい 21 中央地区 20 街区）での、新たな MICE 施設の整備に向けた PFI の手続き等を実施します。

○ 新たな MICE 施設整備事業【概要】

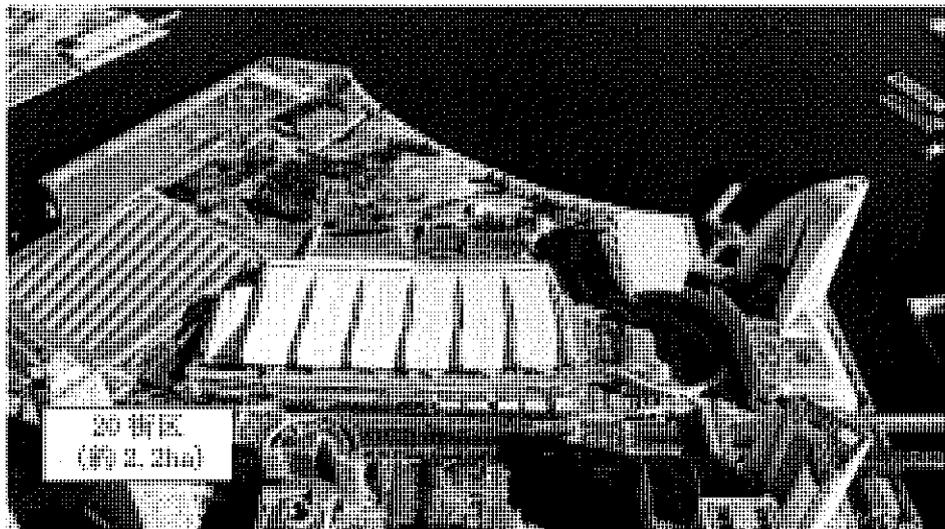
パシフィコ横浜の隣接地（みなとみらい 21 中央地区 20 街区）において、MICE 施設及び付帯設備を整備します。整備にあたっては、周辺と一体的な拠点整備となるよう進めていきます。

<事業概要について>

○敷地等 みなとみらい 21 中央地区 20 街区（約 2.2ha）

○機能及びスペック

| | |
|-----------------|--|
| MICE 機能 | 多目的ホール 約 10,000 m ² 、会議室 約 6,500 m ² 、荷捌き駐車場 |
| 付帯機能（民間事業として実施） | 付帯施設（ホテルを含む MICE 機能を補完する機能） |



【パシフィコ横浜】

展示場 約 20,000 m²、会議室 約 6,500 m²（約 50 室）、大ホール 約 5千人収容、ホテル約 600 室

(2) MICE 誘致・開催支援事業

拡充

2 億 805 万円（前年度：2 億 353 万円）

p. 29

市内事業者や地域と一体となった MICE の誘致・開催支援に関する各種施策を推進することで、MICE 開催機能を強化し、横浜の特色を活かした MICE 都市の確立を目指します。



【国際会議の様子】

【主な事業内容】

○ コンベンション誘致

経済波及効果の高い中大型の国際会議や医学会議を軸に誘致活動を行います。

（主な取組内容）

- ・ 大型国際会議への助成（最大 1,000 万円）
- ・ MICE に関する世界最大級の海外商談会への参加

○ MICE 開催支援

横浜で MICE を開催する主催者の支援を行います。

（主な取組内容）

- ・ 市内事業者等から調達した物品やサービスを現物にて支給する「横浜 MICE 開催応援プラン」の運用

○ 地域連携

MICE の開催効果の市内還元や、まちぐるみの MICE のサポートを行います。

（主な取組内容）

- ・ MICE を活用した次世代育成の実施・拡充
- ・ 市民・事業者向け MICE 理解促進策の実施

○ MICE・観光集客等イベント支援

カメラの国際展示会「CP+」^{シービープラス}の横浜開催をきっかけとしてスタートした写真と映像の総合イベント、「フォト・ヨコハマ」をはじめ、横浜の歴史や景観を活かした大規模集客イベントへの支援を行います。

また支援を通じて、MICE の誘致・開催支援及び観光・集客支援を推進します。



【CP+】会期中の様子』

(3) 企業連携観光プロモーション事業

4,092 万円（前年度：5,894 万円）

p. 28

民間事業者の強みを生かした独自性・話題性のある事業を共同実施し、国内外からの誘客や観光客の滞在・周遊環境の向上など、より高い事業効果を生み出す取り組みを行います。

また、民間事業者が企画・実施する横浜の集客力を高める事業や、横浜の都市ブランド力を向上させる事業を認定し、事業費の一部助成や広報等の支援を行います。

(4) 多文化に対応した受入・誘客事業

新規

900万円（前年度：-）

p. 28

訪日旅行者の増加が著しい東南アジアを対象に、多言語対応を促進するとともに、市内事業者と連携したムスリム旅行者等の受入環境を整備します。

また、東南アジア現地でのキャンペーンを展開するなど、受入環境の向上と誘客の促進を効果的に図ります。

(5) 誘客事業

1億549万円（前年度：1億2,978万円）

p. 28、29

○ 国内誘客事業

観光関連事業者等と連携した旅行代理店へのセールス活動や修学旅行の誘致、近隣自治体と連携した誘客、インターネット・SNS等を活用した情報発信など、多彩な手法を用い、国内からの誘客を促進します。

また、横浜の有する豊富な資源や強みを観光資源として掘り起し、横浜ならではの産業観光などニューツーリズム（着地型観光）を推進します。

○ 海外誘客プロモーション事業

アジア7地域（中国、韓国、台湾、香港、タイ、シンガポール、マレーシア）を主な対象として、市場ごとにニーズを把握し、メディア・旅行会社等への現地プロモーションの実施、国や近隣自治体等との広域連携によるプロモーションの実施、インターネットによる情報発信などの誘客事業を実施します。

◆ トピックス⑤ 横浜来訪者の受入環境の向上 ◆

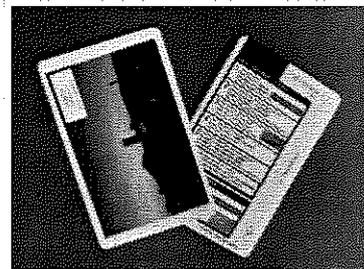
訪日外国人旅行者向け「無料Wi-Fi」の環境整備

外国人旅行者のニーズが高い無料Wi-Fiについて、横浜市とNTT東日本神奈川支店において、25年7月に「訪日外国人旅行者向けの無料Wi-Fi環境整備に関する協力覚書」を締結。

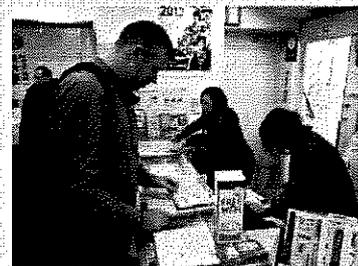
今後も、横浜市内における外国人旅行者の受入環境向上に努めていきます。

【事業内容】

訪日外国人旅行者がキャリアフリーで14日間、無料でWi-Fiを利用できる「ID/PASSカード」を市内の観光案内所等で配付



【横浜版フリーWi-Fi「ID/PASSカード」(表裏)】



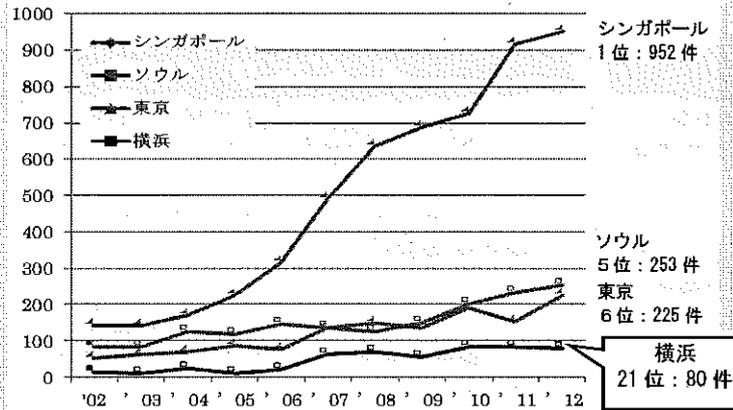
【観光案内所でのカード配付の様子】

◆トピックス⑥ アジア諸国の MICE の取組と本市の MICE 施策◆

○「アジア諸国」の取組

「アジア諸国」では、大規模施設の整備などを通じて MICE 施策を推進することにより、国際会議開催件数が著しく増加しています。

【国際会議開催件数の伸び (UIA*)】



海外の大規模施設の例

・シンガポール エキスポ

展示場：約 10 万㎡

会議場：約 8 千人

・ソウル コエックス

展示場：約 3.6 万㎡

会議場：約 7 千人

※UIA(国際団体連合)の国際会議選定基準

- ①参加者数 50 名以上
- ②参加国数 3か国以上
- ③開催期間 1日以上

○横浜 MICE の強みと弱み

横浜は、羽田空港からのアクセスの良さや、日本を代表するコンベンション施設があることなどの強みがある一方で、旗艦施設であるパシフィコ横浜が年間を通じて高稼働であるため、機会損失があるという弱みも抱えています。

【パシフィコ横浜問合状況 (25年度)】

| | |
|------|-----------|
| 問合件数 | 約 3,200 件 |
| 決定件数 | 約 900 件 |

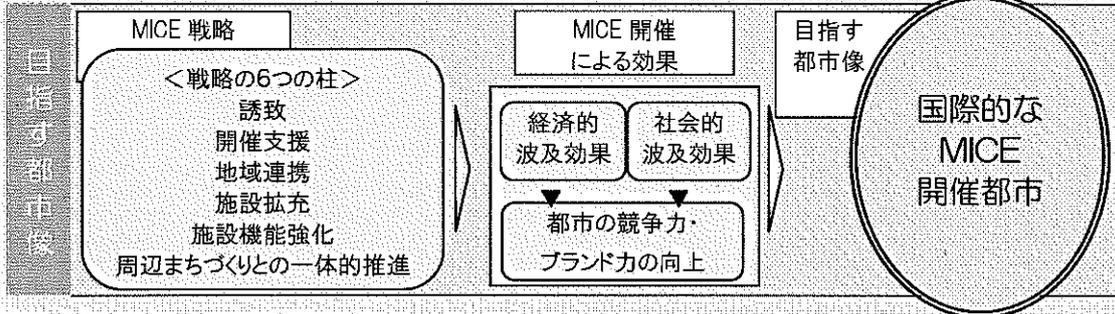
【パシフィコ横浜稼働率 (25年度)】

| | |
|---------|----|
| 年間平均 | 7割 |
| 10月・11月 | 8割 |

○ MICE 機能強化の取組

高い波及効果の見込まれる「中大型国際会議、医学会議の誘致」、将来を見据えた「新たな MICE 施設整備による機能拡充」を進め、「MICE 都市として国際的な地位の確立」を目指します。

【目指す都市像 (中長期 MICE 戦略素案 (概要) 抜粋)】



【MICE 機能強化についての検討経緯】

- 24年3月
横浜市 MICE 機能強化に向けての提言書 (横浜市 MICE 機能強化検討委員会)
～国際競争力ある MICE 拠点都市の確立を目指して～
- 25年3月
中長期 MICE 戦略素案の公表
～国際的な MICE 開催都市としてのブランドの確立へ～
- 25年12月
新たな MICE 施設整備に向けたサウンディング調査の実施及び結果概要の公表

◆ トピックス⑦ 「横浜市文化芸術創造都市施策の基本的な考え方」 ◆

【策定の趣旨】

文化観光局を中心に「観光・創造都市戦略」を推進してきましたが、今後もより一層の相乗効果を発揮するため、文化芸術創造都市に関する今後の施策展開の基本的な考え方をまとめました。

基本理念

- 人々の活力や創造力の源泉であり、市民生活の向上につながる文化芸術の振興を図ります。
- 文化芸術のもつ創造性を様々な施策に生かして、コミュニティの活性化を図るなど、創造的なまちづくりを進めます。
- 横浜の社会資源を生かした創造的な取組や、人々に感動を与える文化芸術の展開により、賑わいづくりと経済の活性化につなげます。

基本方針

- 1 市民の文化芸術活動を支援し、心豊かな市民生活の実現を目指します。
- 2 子どもたちをはじめとする次世代育成を進めます。
- 3 アーティスト・クリエイターを支援し、創造性を生かしたまちづくりを進めます。
- 4 賑わいづくり・観光 MICE 振興にもつながる、横浜らしい先進的な文化芸術を国内外に発信します。

※ 期間は概ね 10 年を想定しますが、社会経済情勢や国の政策動向の変化、本市の新たな「中期計画」の策定等に伴い、必要に応じて見直します。

Ⅲ 平成26年度 文化観光局予算総括表

(単位：千円)

| 科 目 | 26年度 予算額 | 25年度 予算額 | 差 引 増△減 | 前年比 (%) | 主 な 増 減 事 業 |
|---------------------------------|-------------|-------------|-------------|------------|---|
| 4款 文 化 観 光 費 | 7,201,426 | 8,785,983 | △ 1,584,557 | △ 18.0 | |
| 1項 文 化 観 光 費 | 7,201,426 | 8,785,983 | △ 1,584,557 | △ 18.0 | |
| 1目 文 化 観 光 総 務 費 | 1,206,976 | 1,227,567 | △ 20,591 | △ 1.7 | <ul style="list-style-type: none"> ・シティプロモーション事業 7,818千円増 ・調査分析事業 3,946千円増 ・人件費 △ 39,881千円 |
| 2目 創 造 都 市 推 進 費 | 1,377,442 | 704,377 | 673,065 | 95.6 | <ul style="list-style-type: none"> ・東アジア文化都市事業 379,217千円増 ・横浜トリエンナーレ事業 366,100千円増 ・創造界限活動支援事業 △ 34,263千円 |
| 3目 文 化 振 興 費 | 3,657,944 | 5,751,163 | △ 2,093,219 | △ 36.4 | <ul style="list-style-type: none"> ・市民ギャラリー移転事業 364,903千円増 ・文化施設整備事業 △ 2,096,439千円 ・横浜芸術アクション事業 △ 215,200千円 |
| 4目 観 光 ・ コ ン ベ ン シ ョ ン 振 興 費 | 959,064 | 1,102,876 | △ 143,812 | △ 13.0 | <ul style="list-style-type: none"> ・多文化に対応した受入・誘客事業 9,000千円増 ・アフリカ開発会議横浜開催推進事業 △ 110,756千円 ・企業連携観光プロモーション事業 △ 18,026千円 |

IV 予算科目別内訳

| 1 項 1 目 | 本年度 | 前年度 | 差引 | 本年度の財源 | | | |
|---------------|-----------------|-----------------|---------------|---------|---------|----------|-----------------|
| | | | | 国・県 | 市 債 | その他 | 一般財源 |
| 1 文化観光 総務費 | 千円 1,206,976 | 千円 1,227,567 | 千円 Δ20,591 | 千円 - | 千円 - | 千円 40 | 千円 1,206,936 |

横浜魅力づくり室

(1) シティプロモーション事業 67,810千円 (前年度 59,992千円)

文化芸術・観光分野を中心に、横浜のブランド力向上や集客・賑わいづくりにつながる重点イベント・施設を設定し、年間を通じた効果的なシティプロモーションを展開します。26年度は、テレビプロモーションの強化や首都圏の情報発信拠点の増加に取り組みます。

(2) 調査分析事業 12,746千円 (前年度 8,800千円)

市内で実施されるイベントや、横浜を代表する文化・観光施設等について、意識行動調査を実施します。26年度は、調査対象を海外にも広げます。

(3) 魅力創発事業 20,950千円 (前年度 23,800千円)

都心部や郊外部の地域資源の魅力を高め、横浜の魅力として発信していく取組を、区局、市民団体、企業等との協働により進めます。26年度は、区局連携事業である「旧東海道の歴史を活かした魅力づくり」、「横浜つながりの森」などを引き続き展開します。

(4) 開港記念式典開催事業 4,680千円 (前年度 3,170千円)

開港記念日（6月2日）に市民や市政関係者ととともに開港を祝うことにより、連帯感を強め、シビックプライドの醸成、市政の一層円滑な推進を図るとともに、横浜港の歴史と先人の業績に敬意を表します。

総務部

(5) 総務費 23,580千円 (前年度 14,714千円)

文化観光局職員の人材育成事業などを実施します。

(6) 人件費 1,077,210千円 (前年度 1,117,091千円)

文化観光局職員の人件費を計上します。

| 1項2目 | 本年度 | 前年度 | 差引 | 本年度の財源 | | | |
|---------|-----------------|---------------|---------------|---------------|--------------|--------------|-----------------|
| | | | | 国・県 | 市債 | その他 | 一般財源 |
| 2 創造都市費 | 千円 1,377,442 | 千円 704,377 | 千円 673,065 | 千円 201,480 | 千円 17,000 | 千円 17,182 | 千円 1,141,780 |

創造都市推進部

(1) 東アジア文化都市事業 400,000千円 (前年度 20,783千円)

日中韓3か国の開催都市（中国：泉州市、韓国：光州広域市）で、多彩な文化芸術イベント等を実施し、東アジア域内の相互理解と連帯感の形成の促進、東アジア文化の国際的発信力の強化を図ります。

26年2月25日のオープニングを皮切りに、26年9月から10月のコア期間を中心として、多くのジャンルの文化芸術イベントを実施します。

(2) 創造界隈活動支援事業 325,881千円 (前年度 360,144千円)

- 歴史的建造物や倉庫等、都心部の地域資源を有効活用した創造界隈拠点施設の運営管理（ヨコハマ創造都市センター、BankART Studio NYK、急な坂スタジオ、ハンマーヘッドスタジオ新・港区、象の鼻テラス）
- 初黄・日ノ出町地区における、地元、警察、行政が一体となった文化芸術の力を活かした地域再生まちづくりによる都市の再生

(3) アーツコミッション事業 110,798千円 (前年度 134,282千円)

- アーティスト・クリエイターをはじめとする、創造の担い手が活動しやすい環境づくりのためのワンストップ相談窓口の設置、及び活動に関する助成
- アーティスト・クリエイターと企業とのマッチングによる、創造的産業振興モデル事業を実施

(4) 映像文化都市づくり推進事業 26,712千円 (前年度 28,665千円)

- 東京藝術大学大学院映像研究科の知識・技術などに市民が触れることのできる地域貢献事業を実施
- 東京藝術大学大学院映像研究科が校舎として使用する映像文化施設の維持管理

(5) 横浜トリエンナーレ事業 447,600千円 (前年度 81,500千円)

我が国を代表する現代アートの国際展である「ヨコハマトリエンナーレ2014」を平成26年8月1日から11月3日まで横浜美術館・新港ピア（新港ふ頭展示施設）を主会場として開催し、創造都市・横浜の取組を国内外に発信します。

(6) 創造都市国際交流事業 3,797千円 (前年度 4,217千円)

創造都市の取組の推進を図る、地方自治体間の連携・交流を促進する「創造都市ネットワーク日本（CCNJ）」との連携、及び各種会議等を実施します。

(7) 創造都市市民連携事業 **10,071千円** (前年度 11,190千円)

約400名の市民ボランティアスタッフが運営に参加する「横濱JAZZ PROMENADE」や、日本大通りを中心に開催する同時コンサート「ホッチポッチ・ミュージックフェスティバル」など、多くの市民の皆様が参加するイベントの開催を引き続き支援するとともに、まちの賑わいや来街者の回遊性を創出します。

(8) スマートイルミネーション事業 **15,400千円** (前年度 14,300千円)

冬のイルミネーションシーズンにあわせ、公共空間を中心とした都心臨海部の夜景を省電力技術とアートで演出し、都市としての魅力アップを図ります。

また、創造都市を形成する拠点や文化関連施設とも協働して、地域全体でスマートイルミネーションを創出します。

(9) 旧関東財務局保全・耐震対策事業 **27,588千円** (前年度 23,000千円)

市指定有形文化財である旧関東財務局の耐震補強を含めた改修工事の実施設計を行い、工事に着手し、28年度のオープンを目指します。また、公募によって事業予定者を決定します。

(10) 創造都市推進事業 **9,595千円** (前年度 4,396千円)

創造都市の実現に向けた国内外に対する広報費や事務経費等

【終了事業】

(創造都市プロモーション強化事業) 【緊急雇用創出事業】 (前年度 21,900千円)

| 1項3目 | 本年度 | 前年度 | 差引 | 本年度の財源 | | | |
|---------|-----------------|-----------------|------------------|-------------|---------------|--------------|-----------------|
| | | | | 国・県 | 市債 | その他 | 一般財源 |
| 3 文化振興費 | 千円 3,657,944 | 千円 5,751,163 | 千円 Δ2,093,219 | 千円 1,300 | 千円 663,000 | 千円 27,549 | 千円 2,966,095 |

文化振興部

(1) 横浜芸術アクション事業 **32,800千円** (前年度 248,000千円)

高校生・大学生を対象としたダンスコンテストや若手アーティストの育成を目的とした音楽事業など、引き続き次世代育成事業及び市民参加事業等を実施します。

(2) 芸術文化教育プログラム推進事業 **32,500千円** (前年度 23,500千円)

芸術文化の力によって、次世代を担う子どもたちの表現力やコミュニケーション力等を育成するため、学校にアーティストを派遣し、子どもたちが音楽や美術、ダンス、伝統芸能等の体験ができる教育プログラムを実施します。

26年度はプログラム実施校数を拡大し、126校で実施します。

(3) クラシック・ヨコハマ推進事業 **14,500千円** (前年度 14,000千円)

○ クラシック・ヨコハマ

国内屈指の若手演奏家に演奏機会を提供するとともに、市民の皆様に身近な場所で音楽を楽しんでいただくことを目的とし、全日本学生音楽コンクール全国大会を実施するほか、学生音楽コンクール入賞者による地域でのサロンコンサートなどを開催します。

○ 国際音楽セミナー

世界各地から若手演奏家が集い、合宿形式で世界的演奏家から指導を受けるとともに、その成果を発表するコンサートを開催します。26年度から音楽コースを設置する戸塚高校では、セミナー講師による教育プログラムを回数を増やして行います。

(4) 地域文化サポート事業 **30,000千円** (前年度 30,000千円)

文化芸術の持つ創造性をコミュニティやまちの活性化につなげる文化芸術活動や、横浜の個性ある文化芸術を市内外へ発信する活動を広く公募し、支援します。

26年度から横浜市芸術文化振興財団、横浜市、NPO法人で共同の事務局体制を形成し、採択団体や市内文化施設等によるネットワークづくりを推進します。

(5) 芸術文化支援事業 **38,400千円** (前年度 38,400千円)

市内唯一のプロオーケストラである神奈川フィルハーモニー管弦楽団が行う「ヨコハマ・ポップス・オーケストラ」のコンサートなどの活動を支援するほか、美術や舞台芸術など、市民の文化振興を担っている団体の活動を引き続き支援します。

(6) 文化施設運営事業 **2,527,007千円** (前年度 2,541,160千円)

横浜美術館、横浜みなとみらいホール等の文化施設の運営等を行います。

| | |
|--------------------|-----------|
| ○ 横浜美術館運営費 | 721,951千円 |
| ○ 横浜みなとみらいホール運営費 | 455,491千円 |
| ○ 横浜能楽堂運営費 | 175,263千円 |
| ○ 横浜にぎわい座運営費 | 196,885千円 |
| ○ 関内ホール等文化施設運営費 | 756,075千円 |
| ○ 市民利用施設予約システム運営費等 | 221,342千円 |

(7) 文化施設整備事業 **182,962千円** (前年度 2,279,401千円)

市民の皆様が身近に文化芸術に接し、個性豊かな文化芸術活動を活発に行うことができる環境整備のため、身近な拠点となる区民文化センターを、各区の地域特性等に応じて整備します。26年度は、新たに瀬谷区において、基本構想検討に着手します。

| | |
|--------------------------|-----------|
| 瀬谷区民文化センター (仮称) (基本構想検討) | 4,000千円 |
| 戸塚区民文化センター (施設整備費支払) | 178,962千円 |

【終了事業】

鶴見区民文化センター・緑区民文化センター

(8) その他の文化振興事業 **35,958千円** (前年度 57,045千円)

横浜文化賞の贈呈、美術資料収集等を行います。

(9) 市民ギャラリー移転事業 **634,903千円** (前年度 270,000千円)

耐震強度の低い教育文化センターの解体に伴い、同センター内の市民ギャラリーを旧いせやま会館 (西区宮崎町) へ移転します。

26年度は引き続き改修工事を行い、10月10日から開館事業を開催、11月4日から展示室やアトリエの貸出を行います。

(10) 芸術文化振興財団補助金 **128,914千円** (前年度 191,190千円)

公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団の事業への補助を行います。

【終了事業】

(神奈川フィルハーモニー管弦楽団 ブルーダル基金) (前年度 58,467千円)

| 4 | 1項4目 | 本年度 | 前年度 | 差引 | 本年度の財源 | | | |
|---|---------------|---------------|-----------------|----------------|---------|---------|---------------|---------------|
| | | | | | 国・県 | 市債 | その他 | 一般財源 |
| | 観光・コンベンション振興費 | 千円 959,064 | 千円 1,102,876 | 千円 △143,812 | 千円 - | 千円 - | 千円 846,690 | 千円 112,374 |

観光・コンベンション振興部

1 観光資源の魅力アップと活用 355,525千円 (前年度 372,577千円)

民間事業者との連携により、観光資源開発・ニューツーリズム(着地型観光)の推進に取り組めます。また、観光案内所の運営や国内外からの観光客の受入環境の向上に取り組むとともに、三溪園の施設整備支援などを行います。

(1) 企業連携観光プロモーション事業 40,918千円 (前年度 58,944千円)

- 企業との共同事業による観光の振興
- 民間事業者主体による横浜観光プロモーションの認定・支援

(2) 多文化に対応した受入・誘客事業 9,000千円 (前年度一)

- 多言語対応の促進、ムスリム旅行者等対象市場に沿った受入環境の整備
- 東南アジアでの横浜キャンペーンの実施

(3) 横浜おもてなし事業 130,455千円 (前年度 131,905千円)

- 観光案内所の運営などによる来訪者支援
- 国内外からの観光客の受入環境向上

(4) フィルムコミッション事業 10,517千円 (前年度 10,800千円)

横浜への観光客誘致やシティセールスに効果のある映像作品のロケ支援を行います。

(5) 地域ブランド育成と施設整備支援等 164,635千円 (前年度 170,928千円)

- ヨコハマ・グッズ「横濱001」育成支援
- 三溪園の施設整備等の支援
- 所管観光施設の管理及び運営の支援
- 観光動向に関する調査 等

2 国内外からの誘客の推進 105,488千円 (前年度 129,782千円)

国内誘客では、観光関連事業者等と連携した旅行会社へのセールス活動やインターネット・SNS等を活用した情報発信など、多彩な手法を用いて誘客事業に取り組めます。

海外誘客では、アジア7地域を主な対象として、市場ごとにニーズを把握し、現地プロモーションやインターネットでの情報発信などにより、誘客事業に取り組めます。

(1) 国内誘客事業 49,640千円 (前年度 56,297千円)

- 国内向けセールスプロモーション
- インターネットによる情報発信
- 観光資源開発とニューツーリズム(着地型観光)推進等

(2) 海外誘客プロモーション事業 55,848千円 (前年度 73,485千円)

- 海外誘客プロモーション
- メディア・旅行会社招聘等
- インターネット等による情報発信

3 MICE誘致・開催支援 458,051千円 (前年度 449,761千円)

中大型国際コンベンションを軸としたMICE全般の誘致・開催支援や、MICE機能強化事業に取り組みます。また「横浜ならでは」の集客イベントへの開催支援に継続して取り組みます。

(1) MICE誘致・開催支援事業 208,051千円 (前年度 203,525千円)

- コンベンション誘致
- MICE開催支援
- 地域連携(MICEを活用した次世代育成等)
- MICE・観光集客等イベント支援等

(2) 大型国際コンベンション誘致等事業 10,000千円 (前年度 6,236千円)

大型国際コンベンションの誘致等を行います。

(3) 減債基金積立金 240,000千円 (前年度 240,000千円)

4 新たなMICE施設整備事業 40,000千円 (前年度 40,000千円)

MICEの市場規模の世界的な拡大や横浜での開催需要に対応するため、パシフィコ横浜隣接地(みなとみらい21中央地区20街区)での新たなMICE施設の整備に向けた手続き等を実施します。

・株式会社横浜国際平和会議場(パシフィコ横浜)に対する損失補償の設定

パシフィコ横浜の大規模改修の進捗に伴い、損失補償額を変更。

(26年度変更後額: 2,500,000千円(25年度設定額: 1,500,000千円))

・株式会社横浜国際平和会議場(パシフィコ横浜)に対する土地の減額貸付

(26年度貸付額: 568,438千円(25%減額)、減額しない場合 757,917千円)

契約期間: 26年4月1日~29年3月31日(3か年)

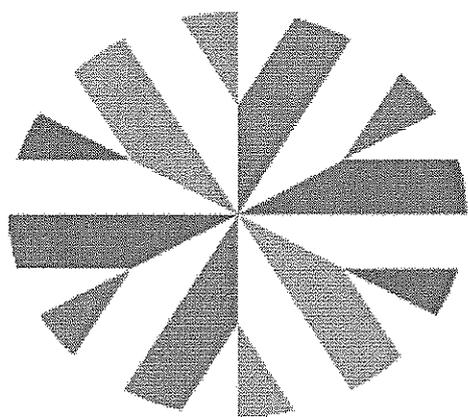
(25年度貸付額: 585,453千円(25%減額)、減額しない場合 780,604千円)

契約期間: 23年4月1日~26年3月31日(3か年)

【終了事業】

(アフリカ開発会議横浜開催推進事業)

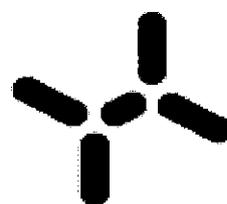
(前年度 110,756千円)



交差する、人・アート・文化

東アジア文化都市
2014横浜

Culture City of East Asia
2014, YOKOHAMA



華氏451の芸術：
世界の中心には
忘却の海がある

Arthur C. Clarke

ヨコハマ

トリエンナーレ

2014

8.1[金]—11.3[月・祝]

基本目標

あうたびに、あたらしい Find Your YOKOHAMA

～「チーム文化観光局」による「選ばれる都市 横浜」の実現～

目標達成に向けた施策

1 さらなる飛躍に向けて

文化観光局は、これまで文化芸術、創造都市・まちづくり、観光 MICE の相乗効果を発揮しながら「文化のかおる活力ある都市横浜、人が集い交流する賑わいのある都市 横浜」の実現に取り組んできました。

国から「東アジア文化都市」「グローバル MICE 戦略都市」等の選定を受けたことを契機として、26 年度は一層の実践を加速させる年度であり、さらに、2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会を見据えた、新たな取組をスタートさせる年度でもあります。

「あうたびに、あたらしい Find Your YOKOHAMA」という、横浜の持つ開放的・先駆的・創造的な要素をふまえたスローガンのもと、賑わいと活力あふれる「選ばれる都市 横浜」の実現を図ってきます。

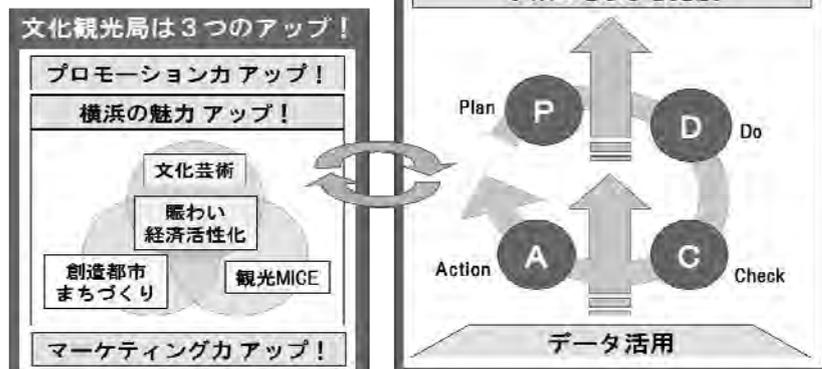
2 施策を推進する 5 つの柱

横浜市が国内外から「選ばれる都市」として発展するため、市民、地域、事業者、NPO 等、多くの皆様と連携しながら、文化観光局に関わる様々な行政課題に果敢にチャレンジします。26 年度は、次の 5 つの柱を立て、市域全体にわたって事業を展開していきます。

- 1 横浜の未来を担う次世代育成の推進
- 2 市民の文化芸術活動の支援
- 3 横浜らしい先進的な文化芸術・創造都市の国内外への発信
- 4 MICE 誘致・開催支援、集客増に向けた観光施策の充実
- 5 戦略的・効果的なシティプロモーションの展開・強化

目標達成に向けた組織運営

データと PDCA サイクルによる確かな業務執行を基盤とし、3 つのアップの連動によって、さらなる賑わいと経済活性化につなげます



○文化観光局「人財」育成ビジョンにもとづいた「目指す職員の育成」

- ・現場主義、顧客志向、地域や企業との協働により、横浜の魅力づくりに取り組める
- ・費用対効果の意識が高く、説明責任が果たせる
- ・法令・ルールの遵守を徹底し、公平性の意識が高い
- ・職員同士お互いを尊重し、生き生きかつ楽しく仕事をし、組織の枠を超えて連携できる

主な事業・取組

| 【主な事業・取組】 | 【内容】 |
|-------------------------------------|---|
| 1 横浜の未来を担う次世代育成の推進 | |
| ○芸術文化教育プログラム推進事業 | ・子どもたちのコミュニケーション力等を育成するため、学校において、アーティストによる芸術文化の体験が出来る教育プログラムを、NPO、文化施設等とのネットワークにより、拡充して実施 |
| ○創造的産業振興モデル事業 | ・新進アーティスト・クリエイター等と市内中小企業双方の創造的な活動を支援し、新たなビジネス機会の創出や創造的産業を振興 |
| 2 市民の文化芸術活動の支援 | |
| ○市民ギャラリー移転事業 | ・耐震強度の低い教育文化センターの解体方針の決定に伴い、同センター内の市民ギャラリーを旧いせやま会館へ移転。26年度は改修工事後、11月から展示室やアトリエの貸出を開始 |
| ○地域文化サポート事業 | ・市民やNPO等が行う、地域特性や魅力を活かし、コミュニティやまちの活性化につながる文化芸術活動や、横浜の個性ある文化芸術を市内外へ発信する事業を支援 |
| 3 横浜らしい先進的な文化芸術・創造都市の国内外への発信 | |
| ○東アジア文化都市事業 | ・中国の泉州市、韓国の光州広域市と都市間交流を進めながら、一年を通じて多彩な文化芸術イベント等を開催し、東アジア域内の相互理解・連帯感の形成の促進と、国際発信力の強化 |
| ○横浜トリエンナーレ事業 | ・我が国を代表する現代アートの国際展である「ヨコハマトリエンナーレ 2014」を東アジア文化都市事業の中心的な事業として、8月から11月にかけて「まちにひろがるトリエンナーレ」として展開し、創造都市横浜の魅力を国内外に発信 |
| 4 MICE誘致・開催支援、集客増に向けた観光施策の充実 | |
| ○新たなMICE施設整備事業 | ・MICEの市場規模の世界的な拡大や横浜での開催需要に対応するため、パシフィコ横浜の隣接地(みなとみらい 21中央地区 20街区)での、新たなMICE施設の整備に向けた手続等の実施 |
| ○多文化に対応した受入・誘客事業 | ・訪日旅行者の増加が著しい東南アジア向けに、多言語対応を促進するとともに、ムスリム旅行者等の受入環境を市内事業者と連携して整備。また、東南アジアでの現地キャンペーンにより、横浜への誘客を拡充 |
| 5 戦略的・効果的なシティプロモーションの展開・強化 | |
| ○シティプロモーション事業 | ・文化芸術、観光分野を中心とした全庁的な取組によるプロモーションを展開するとともに、特にテレビプロモーションや、首都圏での情報発信力の強化により、重点的なイベントなどと連動したプロモーションを推進 |
| ○魅力創発事業 | ・25年度までの実績を踏まえながら、都心部や郊外部の魅力資源について、区局、市民団体、企業等との協働により、横浜の魅力をさらに高める取組を推進 |

※その他の事業、取組については、文化観光局事業概要をご覧ください

(ホームページ <http://www.city.yokohama.lg.jp/bunka/outline/about/>)